

鶴 戸

神話の源流へ。

写真提供 宮崎県観光推進課記紀編さん千三百年記念事業推進室



この度の熊本地震で被災された方々に衷心よりお見舞ひを申し上げます。
一日も早いご復興をお祈り申し上げます。 鶴戸神宮

〒887-0101

宮崎県日南市宮浦3232番地

TEL0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鶴戸神宮ホームページ

<http://www.udojingu.com/>

発行者兼編集者
鶴戸神宮社務所

暑中お見舞ひ申し上げます



宮司 本部 雅裕

鵜戸を訪れた人々③——北原白秋——

新緑の鵜戸さんの山々がきらきらと輝く季節となりました。皆様にはお健やかに過ごしてのこととお慶び申し上げます。

さて、今回取り上げる北原白秋は、明治、大正、昭和三代にわたる詩歌壇の最高峰として有名ですが、五十六歳の時、昭和十六年三月二十六日に鵜戸神宮に参詣してゐます。

明治十八年に生まれ、今の福岡県柳川市で育った白秋は、五十七歳で没するまで詩人、歌人、または童謡作家として活躍しました。その作品は「からたちの花」や「あめふり」、「待ちぼうけ」など、今なほ人々に歌ひ継がれてゐます。西條八十、野口雨情とともに童謡界での第一人者でありました。

白秋の日向への旅は、皇紀二千六百年（神武天皇が大和

国奈良の橿原宮において初代天皇として即位されてより二千六百年を経た年。昭和十五年、国を挙げて奉祝された。ちなみに今年も、皇紀二千六百七十六年）の記念行事のひとつとして、神武東遷を題材にした「海道東征」（のちに信時潔が曲をつけ、交声曲として発表された）の作詞のためでした。同時に、竣工したばかりの八紘台（今の宮崎市、平和台公園）を訪ねて詠んだ「八紘之基柱」と、鵜戸参詣での「鵜戸神宮」の長歌は日向の三部作として、当時広く国民に膾炙されたのであります。

この「鵜戸神宮」は、眼前に広がる日向灘の茫洋、ご祭神ご生誕にまつはる神代さながらの「鵜の鳥」や「産殿」などを詠み、大自然の聖地「鵜戸」をおほらかに讃へあげてゐます。しかし戦後、残念ながらこの歌の存在は充分に認識されてはみませんでした。この度、西都市妻在住の法元加夫さんから、昭和十七年に刊行された、ある「歌集」をご教示いただき、改めて私の知るところとなったものです。

ここに、この歌の全文を掲載しますので、白秋文学に表れた今も変はらぬ「鵜戸の情景」をご堪能下さいますなら幸いです。

鵜 戸 神 宮

鵜は棲みき、神さぶと、翼撓めて、
はるばると見放つや大わたつみ、
水の際涯。

鵜戸よ、げに、とどろ裂く青渦潮、
鵜は留まる今も一羽、その石位、
そぎたつ天の肩に。

吹き降るぞ、夏早きその南の、
繁こきは雨のみか、しづく水沫、
八尋鰐、將た海豚跳び亂れぬ。

ここにしてい行き通ひ、雲立ち立ちき、
ここにしておぼほすや神の歎き、
日向、この大室屋、この岨に、
うつつ坐す天津日高産波激鷗武鷺草草不合尊。

鵜は黝し、去り来るみ霧ごもり
かつ淨し、秀に佇つと、佇ち見放つ、
その石位。

ゆゆしかも、ここしかも、鵜戸の産殿、
荒波やさくなたり飛沫騰り、
岩根噛みぬ。

反 歌

鵜は棲みき、幾代々を、かく寂びつつ、
立つ虹や、海翔けて今羽振るは
その鵜ならし。

鵜戸の海
夕虹明し、
まさしくぞ
神降り立たす天の浮橋。

(この歌は、寺原聖山先生の揮毫により当神宮儀式殿に掲げてあります。)



玉橋より日向灘を眺める



田起しの儀



播種の儀



田植糸の儀



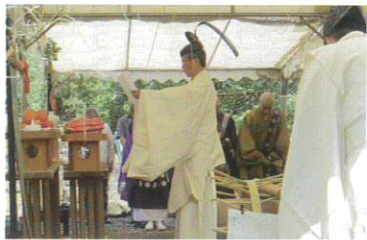
シャンシャン馬道中唄
シャンシャン馬道中再現



舞楽 蘭陵王
豊栄の舞



宮司玉串拝礼
遺族玉串拝礼



宮司祝詞奏上
法要



三月二十三日、御田植祭を齋行しました。祭典を迎へるにあたり二月十日に播種祭、三月十七日に御神田清祓祭を齋行しました。当日は、晴天に恵まれてJAはまゆう職員、鵜戸小中学校児童、氏子が田植糸の儀を行いました。本年は七月中に抜穂祭を予定しています。

御神田行事

三月二十六日、緑日大祭を齋行しました。奉祝行事として、舞楽 蘭陵王・豊栄の舞・鵜戸さん獅子舞・シャンシャン馬道中唄を奉納し翌日には、宮崎県南部の風習であった新婚夫婦が馬に乗り鵜戸参りをする『シャンシャン馬道中』の再現、その様子を唄にした民謡『シャンシャン馬道中唄』の全国大会も開催されました。

春の縁日大祭

五月十七日、鵜戸山別当墓地において別当宮司先賢慰霊祭を齋行しました。当日は、歴代別当宮司遺族をはじめ多数の参列をいただきました。また、宮司祝詞奏上後に願成就寺・王楽寺・萬福寺の住職により法要が営まれ、しめやかに齋行されました。

別当宮司先賢慰霊祭



剣道大会閉会式
日本剣道形奉納 小玉教士七段、島田錬士七段



宮司祝詞奏上
楼門にて



参列者一同
修祓



鵜戸稲荷神社鳥居

平成三十年には、安政五年の勧請より百六十年を迎へます。その佳節に、記念事業として一の鳥居の塗替へ、並びに老朽・劣化した鳥居を撤去し、新たな建立と石段の改修を計画してをります。

二月六日、関係者参列のもと鵜戸稲荷神社例祭を齋行しました。鵜戸稲荷神社は、江戸時代後期の安政五年二月、後藤喜右衛門と津田良吉の両名が、京都の伏見稲荷大社から勧請してきました。現在でも、この両家の子孫が眷族としてお仕へしてゐます。鵜戸稲荷神社は、五穀豊穣と商売繁盛・豊漁・航海の安全とを祈願する人々の崇敬が殊の外篤い神社であります。

例祭

鵜戸稲荷神社例祭

祈年祭



浦安の舞
宮司一拝



献饌
参進



二月十七日、祈年祭を齋行しました。祭典では、今年の豊作を祈る祝詞が奏上され巫女による「浦安の舞」が奏舞されました。この祭典は、農業を主としてきた日本人にとつて、古より執り行はれた大切なお祭りです。現在は、農業はもとより、工業・商業・漁業など諸産業の生成発展をお祈りします。

いさみ太鼓奉納

五月五日、地元小中学校の生徒をはじめ、県内外の児童六十名が参集し、四十回目のいさみ太鼓奉納を行いました。このいさみ太鼓は、昭和五十一年に昭和天皇御在位五十年を記念して創作され、当神宮の荒磯に打ち寄せ砕け散る波の様子を表してゐます。



儀式殿前広場

いさみ太鼓奉納



いさみ太鼓にあはせ獅子舞奉納



委 嘱

責任役員

平成二十八年六月一日委嘱

植野 章一	藏富 英志
濱上 貢	清水 満雄
長友 治	和田 皓
村中 俊二	池田 宗利

氏子総代

平成二十八年五月一日委嘱

鬼束 忠一	石村 唯
後藤 邦治	鶴田 三憲
湯浅 智視	川瀬 静
川瀬 力	長友 泰
村本 覚	清水 愛子
関屋 勝	増竹 成男

崇敬者総代

平成二十八年五月一日委嘱

濱中 武紀	高橋 紘久
奥村 幸男	岩切 文宏
安川 貴博	金田 強
門丸 正憲	長友 宗利
吉村 富士雄	畑田 和彦
上村 育俊	日高 司
石灘 健次	外山 栄告
松田 清	松田 忠明
歌津 芳秋	東元 壽一

(敬称略)

編集後記

○社報「第八十二号」をお届けいたします。
 ○六頁の宮崎日日新聞の写は、五月一日に「ひと」の欄に宮司が、宮崎県の新しい神社庁長として紹介された記事と、五月十三日に記者の矢野さんが当神宮で体験したことを掲載した記事です。
 ○昨年より参道途中の休憩所にて「うさぎ」に関する授与品のみを取り揃へてをります。左の写真は、ご好評いただいたいてゐる御朱印帳と縁起物です。
 ○梅雨明けのみぎり、ご健勝にてお過ごし遊ばされますやう、鵜戸の宮居よりご祈念申し上げます。
 ○今回より私、佐師が社報担当となりました。



御朱印帳



招福うさぎ